

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 瑞穂会	代表者	手嶋 寛人	法人・ 事業所 の特徴	独居高齢利用者・高齢者家族の利用者・家族が自営業を営んでいる利用者・訪問リハビリを利用されている利用者など多様な利用者の受け入れ及び在宅生活・在宅介護の支援を行っている。また利用者・家族の状態や状況変化・要望に応じての柔軟な支援の提供を心がけている。
事業所名	小規模多機能 やはぎ苑	管理者	後藤 恒祐		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	3人	4人	人	人	2人	人	人	1人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者支援をより具体的な具現化できる計画を評価から読み取り、年間・月間に落とし PDCA に沿った計画とする。	日常の支援が中心となり計画作成担当者不在の期間もあった為、十分な計画・評価ができなかった。自己評価を通して支援の方向性への意識付けは少しずつ浸透している。	プライバシー保護について、個人情報保護の意向は理解できるが、不便な面もあるのでは。利用者の事前情報の把握には中堅の介護職員も加わると情報の共有の強化に繋がるのでは。	できている項目を継続し不十分な地域との連携やサービスの質の向上などについても意識して業務に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	積み残しの課題計画を提出する事で町内好立地にある施設を啓発し情報発信エリアを拡大する。	地域への情報発信により、昨年度に比べ行事参加者も増加し、施設理解は進む。	特に意見は無し。	地域の方が来苑、相談しやすく、利用者の方が居心地よい空間になるように環境整備に努める。
C. 事業所と地域のかかわり	地域に根付いた事業とする為に地域事業・行事に参画する機会を模索する。	町内行事への参加のお声がけを頂いたり、散歩等の日々の活動を通して地域の方との交流機会を増やすことができた。	利用者と職員が近所を散歩している時には挨拶をしてくれる。散歩や買い物に出て馴染みな人たちと元気に話す姿を見ると、出来るだけ外出の機会を作れると良い。町内の毘沙門堂へ車椅子でもお参りしやすいように相談してみてもは。	在宅での生活が地域との繋がりであり、事業所も地域資源の一つという事を理解し、地域行事に参加したり、日々の支援にも繋げる。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	更に進んでいく高齢者ケアの課題を多面的に捉え支援体制の確保にも意識した取り組みを重視し、独居であっても高齢者夫婦であっても在宅生活を支える事業者とする。	事業所での利用者やその家族に対する相談・支援による在宅生活は支えられたが、それ以上の周りの方や地域の方の支援まではできていない。	昨年の稲刈りの際に「すげ縄」を編まれる利用者の方に驚き、今年は「すげ縄」作りを行事に。利用者の方の昔の習慣を引き出す良い機会になる上に地域の若い人たちにも新しい事を知る機会になった。	地域にある事業所の一員として様々な機関と連携・協力をする。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	事業所周知活動を地域福祉活動の中に参入依頼し、実践に移すと共に事業課題については事例検討等に参画出来るよう計画立案する。	事業所のサービス評価・取組み・現状の報告等をし様々な助言をいただく。地域での課題や事例の検討には至っていない。	特に意見は無し。	今後も運営推進会議を通して事業所の取組みや改善点を報告・相談する。
F. 事業所の防災・災害対策	大規模災害時、地域の介護施設としての役割が遂行できるよう意識した訓練を積み重ねる。	年 2 回の避難訓練により当初よりスムーズな避難が出来るようになったが、地域の介護事業所としての役割には至っていない。	地域の防災訓練の際に車椅子を押して避難する係りをしたが、避難路には段差も多く車椅子を押すことが難しかった。	避難訓練を通して防災意識を高めると共に地域の介護事業所としてどのような役割ができるか検討する。